

アムステルダム日本人学校に赴任して学んだこと

伊丹市立稲野小学校 教諭 宮崎 大樹

キーワード：オランダ 特色ある学校行事 充実した語学学習

1 赴任地の概観

(1) 「世界は神がつくりオランダはオランダ人がつくった」

アムステルダム日本人学校のあるオランダは、北緯 52 度（サハリンの北とほぼ同じ）、欧州の西側に位置している。国土は、日本の九州より少し小さく、大部分は低地であるが、その 4 分の 1 が海面下である。

オランダ語での国名 *Nederland* は低い国という意味である。日本人学校も海面下約 1 メートルの所にある。

オランダ人は、昔から土地を得るために、また安全な暮らしを確保するために水との闘いを強いられてきた。オランダの歴史は水との闘いの歴史であると言っても過言ではなく、有名な風車は水をかい出すために（最初は粉をひくために使用していた）、木靴はぬかるんだ地面を歩くために用いられたものである。「世界は神がつくり、オランダはオランダ人がつくった」というのは、オランダで有名な言葉の一つである。

春には水仙やクロッカス、チューリップが咲き乱れ、街は一気に活気づく。多くの観光客を迎え、春の到来に心が躍る。人々は外に出て日光浴を楽しみ、食事も外でとる人が多くなり、長い夜をビールやワインを飲みながら楽しむ人でにぎやかになる。

首都アムステルダム（人口約 76 万人）は、オランダの経済・商業の中心地である。アムステルダム中央駅を中心に、街が扇形に広がり、網目状の運河が街中を流れている。運河沿いには 16 世紀からの海運貿易で財を成した豪商の邸宅が所せましと並ぶ。

(2) オランダの教育環境

オランダの義務教育は、5 歳から 18 歳までである。義務教育の間は公立も私立も無償で国の補助を受けることができる。教育内容（カリキュラム）は各自治体や学校に任されており、各校独特の特色ある教育を行っている。学区制はなく、学校の選択は各家庭の自由である。

落第制度があり、多くの子ども（学校によって差はある）が落第を経験するが、これは個々の子どもの発達段階に応じて進級させることを目的としている。12 歳で全国共通学力テストを受け、進路を決定する。中学校にあたる 6 年制の大学進学校と 4 年制（または 5 年制）の一般中学、4 年制の初級職業学校へと分かれていく。大学には総合大学と単科大学があり、入学は比較的簡単であるが、進級や進学は極めて難しい。



2 赴任校の概要

アムステルダム日本人学校は、在蘭日本商工会議所をはじめとする関係者の方々のご尽力により、オランダ日本人学校として 1979 年に開校した。その後、1992 年にロッテルダム日本人学校の開校と共に、アムステルダム日本人学校と校名を変更し、現在に至っている。小学部 7 クラス、中学部 3 クラス、児童生徒数 158 名（平成 26 年 4 月）。教職員は派遣教員を含め 29 名である。

8 時 35 分の朝読書から一日が始まり、ノーチャイムの中で小中学部ともに週 30 時間の授業を実施している。

課題としては、①児童生徒数の減少に伴う学校としての広報活動の在り方 ②教師の資質と力



量を高める研修機会の確保と計画的な実践 ③特別支援教育体制の確立 ④補習授業校との連携（指導と管理） ⑤危機管理体制の見直し等が考えられる。

3 特色ある教育実践

(1) 学校行事

① 在オランダ日本人学校合同運動会

毎年5月末もしくは6月の初旬に実施する。オランダ全土の日本人学校や補習授業校、現地校等に通う日本人の児童生徒が一堂に会する。会場となるアムステルダム日本人学校のグラウンドには仮設スタンドが設置され、参加者は1500人を超える大イベントである。

② 林間学校（小学部4～6年、中学部1～3年）

オランダ国内にある Stay ok と呼ばれるユースホステルのような施設に宿泊する。小学部、中学部ともに3学年をまたぐ縦割り班で構成され、活動を共にする。カヌー体験やオリエンテーリングなどのプログラムを通して、自然豊かなオランダの土地の特色を身近に感じると共に、異学年交流を通して大きな学びのある行事である。

③ 学習発表会

小学部は各学年で、中学部は全体で3つのグループに分かれて学習の成果を発表する。オランダの風車や土地の成り立ち、歴史などについて調べたことを劇形式で発表したり、オランダ語の歌などを歌ったりするなど、現地の文化と密接に結び付いた発表が多いのも特徴である。

④ 水泳教室

オランダ人コーチによってオランダ語でレッスンが行われる。前述のとおり、水との闘いによって土地をつくってきたという歴史的な背景があるため、街中に運河が流れているオランダでは落水の危険性も高く、水泳教育は非常に盛んである。レッスンも、落水した時に命を守るという視点で組まれており、脱力して水に浮くということを最初に徹底して練習する。上級コースになると、人形を使った救助トレーニングも行われる。

⑤ スケート教室

こちらもオランダ人コーチによってオランダ語でレッスンが行われる。冬には大変寒くなる場所に位置するため、冬には運河が凍ることも多く、街中をスケートで巡ることができる。そのため、スケートは非常にメジャーなスポーツとして国民に愛されている。アイスホッケーを運河の上や池の上で子どもが楽しむ姿もよく見られる。スケート教室自体は3回だけの実施であるが、多くの児童生徒はこのスケート教室をきっかけに、休日にスケートを楽しむようになる。

⑥ 社会見学

アムステルダム市内、政治の中心デン・ハーグ、古都ハーレム、大学の街ライデンなど特色のある街を学年に応じて訪れる。また、風車博物館見学やチーズ農場見学などオランダならではの文化に触れる機会も設けられている。

(2) 教育活動

① オランダ語、英語の授業

オランダ語の授業を小1から小6まで、英語の授業を小1から中3まで積極的に行っている。どちらもネイティブ講師による授業である。

② 現地校との交流学习

小3から中3まで、現地校との交流も盛んに行われ、現地の文化や歴史、地理などを中心に国際理解教育の一環として小中学部共に行っている。特に、小学部5・6年生では、互いにホームステイを行い、身近に異文化を感じながらも相互理解へとつなげていこうと始めたこの取り組みも伝統行事となり、20年目を迎えた。

4 成果（派遣教員として得たもの）

3年間、派遣教員として勤務して得た一番大きなものは、オランダでの様々な方々との出会いである。全国から集まった派遣教員の仲間や現地のスタッフ、様々な企業に勤務される保護者の

方々や、現地で永住する日本人の方々。そして、いつも笑顔を絶やさず好奇心旺盛なオランダ人たち。素晴らしい場所で多くの方々と、得難い経験をさせていただいた。